≪2020 年 10 月（通算 288 回）月例会報告≫

＊＊

「Withコロナ」の時代に向けて④

―日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後－

＊＊

【日　時】2020 年 10 月 29 日（木）19：00～21：00（終了後、オンライン懇親会 は23：30 まで）
【会　場】オンライン（Zoom）
【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて④－日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後
【演　者】小松章一（行政書士）

【参加者（会員・メンバー）9 名】　注）★はNPO 会員
浅見明子（NPO サロン理事）、★安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、★笹原勉（日揮グローバル㈱）、★嶋崎雅規（国際武道大学）、田島璃子（NPO サロン事務局／早稲田大学 1 年）、★中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員）、★本多克己（特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ）、吉原尊男
【参加者（未会員）8 名】
有馬亮二（(株) レガーレ）、有村実寿々（筑波大学附属高校 1 年）、髙橋正紀（岐阜協立大学）、垂見麻衣、渋谷茂樹（日本スポーツボランティアネットワーク）、かさいりょうこ、城村“KUMA”勉、森実鉄夫（社会人）

【報告書作成者】田島璃子、中塚義実ほか

＜目　次＞

はじめに
　1．NPO 法人サロン 2002 とは
　2．参加者自己紹介
プレゼンテーション①
　1．自己紹介－わたしのボランティア歴
　2．「一発もの」のイベントボランティア
ディスカッション①
プレゼンテーション②
　3．継続的なボランティア
　4．スポーツボランティアをめぐる考察
　　1）スポーツボランティアのタイプ
　　2）イベント成功、ボランティア高評価の理由
　　3）スポーツボランティアの現状と課題
　5．まとめ
ディスカッション②

＜はじめに＞

１．NPO 法人サロン 2002 とは

中塚 : この会はNPO 法人サロン 2002 の月例会です。2002 年 FIFA ワールドカップが始まる前からこういうことをやっています。ホームページを覗いてもらえると面白い資料がたくさんあります。見たことがある方もいるかもしれませんが、「サロン 2002」で検索すると出てきます。演者の小松さんが来られるまで、NPO サロンのホームページをみながらサロン 2002 とは何かを少しご説明します。

サロンのロゴは、サロンのメンバーでアーティストの土谷享さんが作ってくれました。「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げ、20 世紀の終わりからずっと活動してきました。NPO 法人化したのは 2014 年度です。

サロンの主たる活動は、毎月行われる月例会です。月例会案内は HP に掲載されているので誰でもみることができます。入会するとメールで案内が届きます。会員でなくても月例会には参加できます。

ホームページの「サロン 2002 の事業」を見ていくと、過去の月例会報告書が見られます。かなり読みごたえのある資料です。どんなトピックを取り上げてきたかがわかるのでぜひ見てください。

今年は、1 月は普通にできましたが 2 月、3 月はコロナの影響でできませんでした。小松さんは 3 月の月例会で、東京オリンピック前に話をしていただく予定でしたが延期になりました。

4 月からは月例会をオンラインで再開しています。4 月の報告は HP に掲載されていますが、「新型コロナにどう向き合うか」というメインテーマのもと、学校・職場・スポーツイベントの状況を会員・メンバーが報告しあいました。学校については私が、職場については㈱日揮ミャンマー支店長として着任直後に帰国を余儀なくされた笹原さん、そして観戦ツアーを手掛ける徳田さんが報告者です。毎回このような報告書を作成し、HP を通じて公にしています。今回も記録を残します。報告案ができた段階で参加者に確認をお願いしているのでご協力をお願いします。

本日は小松章一さんです。zoom を使うのが初めてのようで、事前練習はしたけどうまく入れていないようです。

どういった人が集まっているのかを知りたいので、いま来ている人で自己紹介をしましょう。

２．参加者紹介

中塚 : NPO サロン 2002 理事長です。嘉納治五郎が校長を務めた筑波大附属高校で高校教師 34 年目です。

有村 : 筑波大附属高校 1 年生で、陸上部に所属しています。

野村 : 埼玉ソーシャルフットボール協会で精神障がい者のフットサル運営をしています。運営スタッフもボランティアのような感じ。楽しみにしています。

吉原 : サロンのメンバーです。東京オリンピックではゴルフの「駅案内」のボランティアをする予定です。本番が延期になってしまい、どういう形で臨むかをもう一度見直すために参加しました。

浅見 : NPO サロンの理事を務めます。J-Workout ワークアウトで脊髄損傷の方のトレーナーの仕事をしています。

渋谷 : 笹川スポーツ財団。日本スポーツボランティアネットワーク。生涯スポーツの普及の中で、子ども、地域、障がい者スポーツに関わり、スポーツボランティアの調査や研修をしています。現場の実践者の意見を聞きたいと思い参加しました。zoom は人の反応が見て取れないので、手話の拍手がいいです。

髙橋：岐阜協立大学でスポーツ先進医学の教授です。オンラインなので岐阜にいても顔が出せるのがありがたいです。

嶋崎：NPO サロン理事で、いまは千葉県勝浦にある国際武道大学に勤めます。帝京高校で長らく国語教師・ラグビー部の指導をしていました。

笹原：NPO サロン会員で去年まで理事でした。ミャンマー赴任のため理事を退任しましたが、コロナのため赴任できていません。

有馬：笹原さんの紹介です。コンサルティング会社。筑波大サッカー同好会 OB です。

かさい：主婦です。お話を聞きたく来ました。よろしくお願いします。

安藤：NPO サロン会員でスポーツドクター、ハンドボールをやっていました。国境なき医師団でコートジボワールに行っていたこともあります。ボランティアに関心があります。

KUMA：こんばんわ。声を出せないところに居りますので、こちら（ミュート）で失礼します。

中塚：いくつか確認事項です。zoom ミーティングなので演者が話している間はミュート。できる限り顔は出してください。主催者の方でレコーディングしますが公開はしません、記録は報告書作成に使います。報告書はホームページに掲載するので、その前にチェックしてもらいます。名前NG の方がいたらチャットに書いておいてください。質疑、ディスカッションも含め、9 時終了を目安に始めましょう。

＜プレゼンテーション①（小松章一）＞

１．自己紹介ーわたしのボランティア歴

それではお話ししていきます。小松と申します。

いまからスポーツボランティアについてお話しします。2002 年 FIFA ワールドカップからボランティアをしていて、その経験や感想、オリパラをはじめスポーツイベントにどうやって関わっていけばよいか。コロナでボランティアのやり方も変わっているので、そのあたりについても話したいと思います。

まずは自己紹介をします。仕事は行政書士で、役所に提出する書類を作っています。いまは営業許可、外国人のビザ関係が多いですね。スポーツ観戦やスポーツボランティアに週末の時間を費やしています。スポーツボランティアは 2002 年 FIFA ワールドカップからはじめ、はまっていきました。

＜わたしのスポーツボランティア経歴＞

2002 年　FIFA ワールドカップ　…　メディアセンター
2006 年　FIBA 世界バスケットボール選手権（さいたまスーパーアリーナ）…　観客の誘導
2007 年　第 3 回アメリカンフットボール世界選手権 IN 川崎（川崎球場、等々力陸上競技場）
2007 年から　東京都サッカー協会フットサル　…　運営スタッフ
2008 年から　東京国際マラソン　…　運営スタッフ
2013 年　スポーツ祭東京 2013 ボランティア（国体・障碍者スポーツ大会）
2018 年　世界女子ソフトボール選手権・オリンピック予選会（千葉）

2019 年　ラグビーワールドカップ 2019 ボランティア　…　駅案内
2020 年　TOKYO2020 オリパラボランティアの予定が延期　…　フィールドキャスト、シティキャスト
2017 年から　FC 東京スポーツボランティア
2018 年から　葛飾区スポーツボランティア

２．「一発もの」のイベントボランティア

◆2002FIFA ワールドカップ

チケットが取れず、ちょうどボランティアの募集をしていたので応募しました。その時の募集要項がこちらです。

申込書は横浜まで取りに行きました。ボランティアは開催自治体で募集しており、申し込み。ちょうど 2001 年のゴールデンウィークごろのことです。7 月に最初の面接があり、8 月に採用通知が来て、11 月に案内がきました。

開催地の募集だったので東京では募集はありません。活動内容は、国際電話やコピーの使い方、情報端末の操作を、メディアセンターで新聞・テレビなどの関係者に説明することです。テレフォンカードを買って電話をかける方法や、コピー用紙の交換などを説明しました。

事前研修は前年の 11 月。実地研修が 2 月からでした。その間いろいろな研修があったので、ボランティアセンターもメーリングリストを用意し、スポンサーのヤフーのメーリングリストで連絡を取りました。パシフィコ横浜で月に 1 回ミーティングをしたり、メーリングリストで情報交換しました。1 か月の活動はとてもやりやすかったです。

とても楽しく、いろいろな境遇の人や仲間、いろいろな仕事の人の話が聞ける、ということで面白いと感じ、はまっていきました。

ボランティアに渡される資料を少しお見せします。

① 2002FIFA ワールドカップのボランティアマニュアル

具体的に書かれていたことは、サッカー関係者やファンのコメント。郵送で来たボランティアニュース。具体的な活動場所について。メディアセンターの仕組み。各スタジアムにメディアセンターがあります。メディアセンターのシフト。マッチスケジュールはすべてのスタジアムのスケジュールが書かれています。試合時間について。そういったものがマニュアルに書かれています。岡野会長のあいさつもあります。

② 研修資料

これが最初の研修の資料です。このようなマニュアル、本当は皆様に見せたかったのですが…。

これが最後にいただいた卒業写真みたいな、活動の記録という本と AD カードです。私が着ているのもワールドカップのウェアです。ポロシャツ。まだこのシャツに入れます。18 年前と体形は変わってますけど…。

◆世界バスケットボール選手権

このような形でスポーツボランティアをはじめ、次に何をしたかというと、世界バスケットボール選手権です。メインは観客誘導で、埼玉県の職員が実行委員会に出向していいました。採用面接が 1 回あり、事前研修が 1 回。さいたまスーパーアリーナは 4 回ぐらい試合に入りました。これはサッカーに比べ、当日で終わり、という感じで、ただ単に、与えられた活動を所定の位置についてやる、という感じでした。

これが世界バスケのマニュアルです。バットマンというキャラクターを使っていました。ほんとうに埼玉の方が多く、地元のためという感じでした。客の入りは良くなかったのですが、大会は成功したと言えるでしょう。

◆アメリカンフットボール世界選手権

世界バスケが終わると、アメフトです。マイナーな種目ではありますが、ちょうど出身大学のアメフト部が強かっ

たのでよく見に行っていたし、雑誌も買っていました。そういう雑誌の中にボランティア募集の案内を見つけ、応募しました。川崎球場などでの観客の誘導、メールの案内のみで事前研修はなし。スケジュール調整もマニュアルもメールのみ。先進的というかなんというか。オンラインを有効に使っていた事前研修だった、という印象です。

◆スポーツ祭東京

その次に、スポーツ祭東京、国体ですね。味の素スタジアムで活動しました。だいたいスポーツボランティアはチケット切りや競技の準備になりますが、このときはいろいろな担当をしました。「観客をあおってください」と言われたり、着席の案内をしたり。練習日には、練習する選手に給水所で水の配布をしたり。障がい者スポーツ大会ではレーンとプログラムの名前が一致するかなど。スポーツ祭東京ではいろいろな活動を経験しました。

◆世界女子ソフトボール選手権

おととし、東京マラソンの流れで応募しました。これも 5 月のゴールデンウィークに事前研修があり、日本リーグを観戦し、8 月に習志野の秋津球場で試合の庶務、雑用をしました。観客に接することはなく、コピーしたり、お弁当の割り振りをしたり。観客のカウントもしました。たいへん暑かったのを覚えています。

◆ラグビーワールドカップ 2019

去年はラグビーのワールドカップがありました。2018 年の夏に募集が始まり、2 月に研修、3 月にリーダー研修。駅での大会案内ということでした。ラグビーワールドカップは特殊で、大会枠と東京都で採用する枠がありました。東京都の枠はオリパラのシティキャストの選考が免除される、というものです。それなら申し込もうと思って申し込み、シティキャスト枠を確保しました。するとスタジアム外での活動に。駅での大会案内でしたが、ほかには調布や有楽町のファンゾーンでの活動の人もいました。

これはやってみて、大会本部じゃなく東京都の取り仕切りです。ユニフォームは同じでしたが。自治体がやると仕切りが悪いのは経験済み。東京都は何をしたらいいかわかっていなかったようです。この活動でオリパラのシティキャスト研修が免除されるとのことなので、シティキャストの活動がどうなるのかと、仕切り方を心配しています。ラグビーワールドカップの経験が糧になればいいのですが…。

◆TOKYO2020

延期になってしまいましたが、フィールドキャストとシティキャストの両方で活動するつもりでした。2018 年秋に募集を開始し、3 月に説明会。10 月から研修が始まり 11 月の研修に参加しました。人数がとにかく多い。8 万人いるので、説明会は回数を分けて行います。2 月以降については集合研修が中止になり、オンラインで行われています。英語の研修がなかなか終わりません。

ここまで、大きな大会のスポーツボランティアで「一発もの」について紹介してきました。後半では東京都サッカー協会のフットサル運営スタッフなど、継続性のあるボランティアについて説明します。

＜ディスカッション①＞

中塚：ありがとうございます。小松さんが携わった 2002 年 FIFA ワールドカップから 2020 年東京オリパラまで、ビッグイベントのボランティア歴を紹介してもらいました。ここまでのところで質問、補足などあれば。近いところだと去年のラグビーワールドカップが気になりますね。組織委員会と自治体募集の違いがあったとのことですが。

小松：両方申し込んだが、通ったのが自治体のほうでした。

中塚：行ってみたら東京都の仕切りが悪いと。

小松：現場に問題があります。大会の駅で案内をしてと言われましたが、スケジュールが置かれていません。ファンゾーンの番組表もありません。横浜で試合がある日なのに、横浜のファンゾーンの状況もわかりません。

中塚：そのような状況で何ができたんですか？

小松：通行人の記念撮影など。フォトフレームを持ったり。大会をやっているというプロモーションがメインです。

中塚：本当はもっとサポートや盛り上げをしたかった？

小松：そうです。味の素スタジアムの試合に行きましたが、そのあと新宿駅で、ボランティアが帰った後に案内をやりました。そのほうがボランティアっぽかったですね。

中塚：与えられた仕事ではなく、ボランティアのボランティアをされたということですね。ユニフォームは？

小松：同じです。

中塚：ここで、ラグビーワールドカップ組織委員会のボランティア研修に携わっておられた渋谷さんから補足をいただきたいのですが。

渋谷：オリパラとラグビーは特殊です。ベースは若干違いますが、オリパラで説明すると、試合会場ベースのフィールドキャストと、開催都市の最寄り駅や空港、会場と関係ないがオリパラを見た人が観光で訪れる場所にボランティアを配置するのがシティキャストです。
研修は同じ中身です。ラグビーも近いやり方でしたが、自治体のパワーが弱く、さばきが悪かったと聞いています。全体的には成功しましたが、役割によってはうまくいっていなかったようです。東京のファンゾーンでは中塚さんと一緒にロシア戦を見ました。ボランティアの調査で行っていたのですが、グダグダだったと聞きました。ボランティアのマネジメントの良かったところは、試合と試合の間に日数があり、改善できることです。なのでだんだん改善されました。短期間で終わるものだと改善の前に大会が終わります。その点、ラグビーワールドカップがうまくいった要素は、オリパラと違う面でありました。共同ホストにしていただけたら他の場所の写真も出せます。時間があれば。

小松：中塚先生のところにマニュアルがあります。

中塚：これですね。小松さんとの出会いは東京都サッカー協会の運営スタッフです。小松さんが他にもいろいろやっているというのは聞いていて、あるときこういう冊子を持ってきてくれました。ラグビーワールドカップのボランティアマニュアルです。よくできています。バインダー式で、いろんな情報が満載です。マニュアルとしてここまでやるかというくらい。去年の秋から冬ごろに小松さんに月例会で話題提供してほしいと話をし、今年の春先に予定しましたが、コロナで伸びていまに至りました。ラグビー続きで嶋崎さん、いかがでしょう。

嶋崎：去年のワールドカップは観客として何度も見に行きました。ボランティアの人が楽しそうだった、楽しんでい

ると感じました。ボランティアのイメージが変わりました。入っていくと笑顔で迎え、写真撮影もしてくれる。ハイタッチでお別れする。楽しそうでした。渋谷さんがおっしゃったように、決勝に近づくほどボランティアも充実していたと思います。ボランティアって楽しいんだなと感じました。一観客としての意見です。

中塚：ラグビーワールドカップは開幕のロシア戦を渋谷さんと一緒に有楽町で見て、横浜と釜石の試合を実際に現地で観戦する機会がありました。釜石でのボランティアのうれしそうな姿。世界中から来た人に自分たちの街を知ってほしいというオーラが出ていました。統一感もありました。残念ながら釜石は2 度目の試合が台風で流れてしまいましたが、1 回目でありながら観客をいい気持ちにさせてくれたボランティアは素晴らしいと感じました。

＜プレゼンテーション②（小松章一）＞

３．継続的なボランティア

ここまでは大きなイベントについてでしたが、ここからは継続的なスポーツイベントついて説明していきます。

◆東京都サッカー協会フットサル運営スタッフ

まず、フットサルの運営スタッフです。2007 年から東京都サッカー協会でやっています。天皇杯を観に行った際、たまたま情報を見つけました。フットサルの運営スタッフを募集していたので応募しました。最初はサッカーとフットサルのルールの違いもわからなかったのですが、ラインテープの引き方や試合の準備など、コンスタントに出ていると早くできるようになっていきます。大会の準備や試合記録の作成、ボールパーソンなどをしています。

2010 年からは運営スタッフの統括リーダーをしてきました。

◆東京マラソン

次は東京マラソンです。これは2008 年の第2 回大会にボランティアとして参加しました。10 月、11 月から募集が始まり、1 月から研修。今年はコロナで流れ、エリートランナーのみだったのでボランティアの活動も減りました。

来年の秋に開催予定です。ボランティアの BBS があり、そこで情報をやり取りしています。

◆葛飾区スポーツボランティア

これは、ランフェスタや「キャプテン翼カップ」、小学生の全国大会予選のボランティアに参加しました。「キャプテン翼カップ」のボールパーソンや出店の出展の補助など、いろいろなことをしています。

４．スポーツボランティアをめぐる考察

１）スポーツボランティアのタイプ

スポーツボランティア参加者のタイプは、大きく 3 つに分けられると思います。競技支援型、イベント参加型、地域盛り上げ型です。

① 競技支援型

競技そのものが好きな競技支援タイプは、例えばマラソンなら、ランナーでエントリーしたけど落ちたのでボランティアとして関わるという人などです。東京マラソンに関してはランナーを断念した人が携わっています。ランナーの立場で大会の運営ができるというサイクルが出来上がりつつある。横浜などでも同じでしょう。

② イベント参加型

これはお祭りが好きな人です。競技に興味がない人も多いです。2002 年 FIFA ワールドカップやラグビーワールドカップもそうですが、競技には興味ないという人も結構います。ただ、地元でやるから、大きなイベントがあるから、外国の方が来るからサポートがしたい、とかスキルを活かしたいという人がイベント参加型です。大きなイベントでスキルを活かしたい人が、大きなイベントでは多いですね。競技について知る機会にもなります。世界バスケに関しては、バスケのチームでボランティアをやっていました。一般の人もいましたが。

③　地域盛り上げ型

地域を盛り上げたい人です。東京マラソンもそうですが、オフィシャルボランティア以外にも、商店街で何かやる人もいます。地元で何かやりたい人、そういうタイプのボランティアが、東京マラソンにはよく、そういう感じの人がいます。ボランティアはやらず、疲れたランナーにスプレーをかけてあげたり、飴やチョコをあげる人もいます。

組織ではなく勝手に。

２）イベント成功、ボランティア高評価の理由

FIFA ワールドカップも昨年のラグビーワールドカップもそうですが、日本で行われる国際大会では「こんなの初めて」「こんなにうまくいったのはボランティアがスムーズだった」との意見が聞かれます。サッカーもラグビーもそうでした。高い評価をいただきました。

何でこのように高評価が得られたのだろうと考えました。やはりまず研修プログラムが充実していたことが挙げられます。他の大会も同じです。読んで理解しているかしていないかです。

ボランティアの自主的行動がカギだと思います。東京マラソンだと研修があり、集まるときに、自分の立場がわかると事前に下見に行きます。誰にも言われずに、自主的に現場に行って下調べをしています。こういうボランティアの自主的行動がいいのだと思います。先ほどのラグビーも例にもありましたが、回数を重ねると徐々に改善されていきます。自分たちでフィードバックして、リーダーに伝え、だんだん良くなっていくのです。

他の国の状況は知りませんが、日本では学校行事、学校の中のイベントが多いのではないでしょうか。体育祭とか。そして行事の委員が必ずいて、そういう人が中心となって運営する経験を学生のころからやっているから違和感なくできるのかもしれません。

また、顔を突き合わせて行う活動です。他のボランティアの性格を知り、こういうふうにかかわろうと人間関係を短い時間で築き、活動を大きなトラブルなくできているんじゃないかと思っています。

どうなんでしょう。皆さんの意見を伺いたいところです。

３）スポーツボランティアの現状と課題

スポーツボランティアの問題点として、リーダーの人材育成がまだまだ不足していると思います。スポーツネットワークさんなどがやっていた気はしますが、なかなか需要に追い付きません。結構、ボランティアとリーダーの相性が合う合わないというのを耳にします。大会が大きくなると参加者も多くなり人材が不足します。

2002 年はリーダーがおらず、みな同じ立場でした。リーダーを置くかたちを確立したのが東京マラソンです。人数が多くなるとまとめる立場が必要です。リーダーの養成に力を入れ、ボランティアを取り仕切るボランティアが出てきました。歴史的には浅いですね。おそらく長野オリンピックのときのボランティアも、ただ言われた活動をやるだけだったのではないかと思います。過去の経験をもとに自主的に動くボランティアが出て、取りまとめるボランティアが出てくるのかもしれません。まだまだ足りないという印象です。

また、参加者のモチベーションを組織として維持する方法の確立が必要です。マラソンの経験者、走ったことがある人や、他の競技の経験者、スポーツをしない人もいます。そういう人のモチベーション維持の方法を確立し、やり

やすくする部分も求められるのではないでしょうか。

コロナ禍で顔を突き合わせられなくなりました。研修のオンライン化が進んでいます。オンラインで進めるつもりだったのかそうでないのかわかりませんが、東京マラソンも、以前は顔を突き合わせるリーダー研修がありましたがオンライン研修になりました。画面を通して話していますが、今後もこういう流れになっていくのでしょうか。昔からのやり方に慣れていると違和感があります。

研修のオンライン化による懸念は、人間関係がわからなくなり、ずれが生じたり活動に支障が出るのではということです。2002 年のワールドカップでは半年前から月に一回現場で研修がありました。人間関係が形成されたうえで活動に入りました。そのころの人とはいまでも関係を続けています。遊びには行けませんが、年に何回か会っています。18 年間続いています。

オンライン化で人間関係がどう形成されるのか。当日顔を合わせたメンバーで、「この人とはできないよ」となることもあるかもしれません。東京マラソンのような 1 回だけの大会だと、活動時間が短い場合もりますが。

ボランティアは難しい。メンバーの当たり外れが出てきます。

「新型コロナ」でオリンピックが延期になりました。注意すべきことは、辞退者が 2 割くらいと聞いた。私は国立競技場で内定していましたがどうなるのか。敷かれている緘口令もあるので話せません。

まとめ

「新型コロナ」が、事前研修のオンライン化に拍車をかけました。オンラインがスムーズにいっているからか、現場の混乱は聞こえてきません。やれているのだと思います。

けど、人と人との共同活動の、人間関係を築く機会が減りました。もとから知っている人どうしの方がやりやすいですね。これがオンライン化でいいほうに行くか悪いほうに行くかはわかりません。

ボランティアのシステムは発展途上で改善の余地があります。先ほども話に出てきましたが、環境整備や人材育成がもっと必要だと思います。イベントを楽しむという話について、釜石のボランティアは 2002 年 FIFA ワールドカップの宮城のボランティアが核になってボランティアに参加し、場数を踏んでいました。その人たちが釜石でボランティアをしたかたちです。

ある程度、ボランティアをしたことがある人はいいが、初めてやる人を取り込むにはどうしたらいいでしょう。

そういった環境の下での人材育成が必要になってくるのではないかと思います。

＜ディスカッション②＞

中塚 : ありがとうございます。単発イベントから定期的なスポーツイベントの事例、スポーツボランティアにどういう人がなろうとしているのか、日本のスポーツボランティアの評価や、コロナの影響について話してもらいました。残りは 25 分ですが、この人数なのでブレイクアウトにはせず、フリーで質疑応答、ディスカッションしていきたいと思います。質問や意見があれば「反応」で合図するかリアルで手を上げてください。補足でもかまいません。

安藤 : 嶋崎さんが言った「ボランティアが楽しそう」というのが大切です。本人がやりたい仕事をうまく割り当てることが必要だと思います。ボランティアといっても作業はいろいろ。専門性もあります。ボランティアを階層化し、やりたい分野に行けることが必要ではないでしょうか。

小松 : リーダー、サブリーダーの下地はいろいろ作っています。ただ、自分のやりたい活動ができるかは主催者次第。どう折り合いをつけるかというのはあるでしょう。ラグビーワールドカップでもありました。活動がいやで辞退した

人もいます。

安藤 : 人間関係がうまくいかなくて嫌になることもありそうですね。マネジメントも大切です。

小松 ; 2002 年のメンバーのメーリングリストにも「こんなのをやるために入ったんじゃない」といって消えていった人もいます。

中塚 : 東京都サッカー協会フットサル委員会の話で、半分補足、感想になります。はじめのころ、東京都サッカー協会がフットサルの大会を企画し、審判は派遣してもらいます。ラインテープを引いたり記録を書いたりする人は必要で、来た人がやっていました。プレーヤーが交替でささえる活動もしていました。高体連の大会は全部そうです。しかしそれでは回らなくなり、ささえることに喜びを感じる人も増え、運営部スタッフの募集が始まります。やりだすと、例えば 1 月の大会で運営スタッフがいないかなという話になり、競技を企画する部会には余裕がないので運営部を設け、その中でもリーダーやサブリーダーを付けるようになりました。10 年ほど前からです。東京都サッカー協会フットサル運営スタッフの登録制度もはじめ、登録費 1000 円を払ってボランティアをする。目標は 5 年間で 1,000 人としていましたが、登録数は増えません。いつになっても小松さんと会場で会うような状況です。なぜ増えないのかといえば、いまの話と関係しますが、ヒトなのか環境なのか、登録制度がボランティアにはなじまないのか、やり方が悪かったのか…。検証が必要ですね。

小松 : 環境でしょう。フットサルに興味がある人はプレーしたい。プレー経験のある人でボランティアをやってみたいという人も出てきました。競技が好きになって、そういう立場から仕事をしてみたい、と。

中塚 : イベントに関わるうちに競技そのものが面白くなってきた人もいるでしょうね。

野村 : 話を聞き、仕事とボランティアって似ていると感じました。人材の育成。会社をみていて、リーダー人材の育成を意識していると、働いていて感じます。自分は精神障がい者のフットサルの仕事をしており、学生ボランティアを受け入れています。福祉学科の学生やボランティア学科の学生です。精神障がいを持っている人に対し、大変なんじゃないかと思っている人が多く、その中で一所懸命フットサルをやっている人がいると伝えたく受け入れています。学生もそれぞれの興味があり、ボランティアに打ち込む人と、あまり興味持ってくれない人といます。積極的にボランティアに参加する学生は人間的に自立していて、大人に変わっていくと感じます。そういうところが仕事にも似通っていると感じ、勉強になります。ありがとうございます。

笹原 : 2002 年の時はボランティアをやりたかったのですが、研修がたくさんあり、一般のサラリーマンとしてはなかなか手を挙げられませんでした。仕事との折り合いはどうしているのですか。

小松 : 自分は平日の夜だったので都合がつきました。あとは土日。夜 7 時くらいに行きました。研修が多くてできないという人もいます。オリパラでも。

中塚 : 平日仕事をして、週末を持っていかれる。そのあたりの心身の疲労、ワークライフバランスという面からはどうでしょう。高校の体育教師で部活動を見ている人は常にそうなのですが。

小松 : 好きだからできるということですね。ハードルはいろいろあるでしょう。会社を辞めた人とか、年齢層には偏

りがあると思います

中塚 : 学生やシニア層が多いのですか。

小松 : 30～40 代もいます。あと時間に都合がつく仕事の人ですね。

笹原 : 途中で小松さんが、日本の評価が高い理由を言い、海外はどうだろうとの投げかけがありました。北京でオリンピックがあったとき、ボランティアの人がいました。中国語では「志願者」と書きます。見ると、若い人か若くない人の両極端。本当に志願したのか定かではありませんが、ニコニコして楽しそうにやっていました。

髙橋 : 自分自身ボランティアについて思うところがあります。岐阜県で学生がたくさんボランティアとして使われました。高橋尚子さんが関わるマラソン大会です。ぼろ雑巾のように使われていました。学生をもうちょっとリスペクトしてくれと感じました。2002 年のワールドカップとかラグビーワールドカップの話では、リスペクトされていると、いろいろな角度から感じられます。

小松 : 大きな大会だと、研修の最初が主催者挨拶。盛り上げる一因だと思いますが、モチベーションは上がります。主催者が挨拶をしてくれるとやる気が出ます。そういった形でモチベーションを上げるのが大切なのではないでしょうか。当日来て作業を指示されるだけでなく。大きな大会ではそれができていると思います。

髙橋 : J リーグで、ボランティアに対してどうリスペクトしているか社長に聞くことがありました。生き生きとしているところは、社長が出向いて話をしたり、選手がお礼に行ったりします。リスペクトされている、プライスレスな感じです。そういう仕組みを、お金かけずやることが重要です。何回も関わってくれているボランティアには、誕生日に色紙にサインをしてくれた。もらった方はうれしい。ケーキをもらったら天にも昇る気持ちになると提案します。

小松 : クラブの会場の大きさにもよるでしょう。J3 でそのようなことをやっていました。箱が小さく、選手やクラブスタッフとの距離が小さい。味スタだとスタジアムが大きく、かないません。J3 だと社長と一緒にご飯食べたりできます。試合が終わると選手がきて、社長とハイタッチして帰れます。そういう、クラブスタッフの目が行き届くには競技場の大きさが関係しているのではないでしょうか。

渋谷 : 箱の大きさではありません。スポーツボランティア、スポーツの興行は、J リーグと東京マラソンが発展させました。FC 東京はインセンティブがないかもしれませんが、川崎フロンターレではボランティアは納会に出る権利が得られ、その納会には選手も参加します。髙橋先生のリスペクト、やりがいづくり。継続するに尽きます。楽しくない活動もどうしてもあります。駐車場の見張りなど。そこにやりがいを作るのが大切です。美味しい活動と美味しくない活動はあります。先ほどのプレゼンにもあったように、ボランティアに裁量を与え、創意工夫でクオリティが上がることを受け止める必要があります。スポーツボランティアの定義は、報酬を目的とせず、公のためになるスポーツ大会に関わることですが、地域のスポーツ指導者なども立派なスポーツボランティア。小松さんが素晴らしいのは、大きなものだけではなく、葛飾のイベントや競技普及の東京都サッカー協会のボランティアなど、いろんなものにかかわっておられるところです。ボランティア育成の立場からすると、小松さんのような方を増やしていきたい。オリパラボランティア事業で必要なことだと考えます。

中塚 : 東京都サッカー協会の運営スタッフ登録制度の問題も、制度以外に目を向ける必要があったのだと感じました。

また、ボランティアの原体験を学校教育の中で、やらされるのではなく、ささえる喜びを感じられるような雰囲気で体験するのも大事なことだと思います。立候補して委員になり、やり切ったという経験や自信は、大人になって、じいさんばあさんになっても、いろいろなことを楽しめることにつながるのではないかと思います。今日は高校生も参加しているので、今日のおじさんたちの話の感想を聞かせてください。

有村：自分はボランティアに参加したことがなく、イメージがなかったのですが、すごくいろいろな要因があるんだなと思いました。自分はスポーツの大会で委員とかに立候補しましたが、それは自分が好きだから、という気持ちが大きく、そういう気持ちを大事にして、ボランティアをやり、周りも巻き込んでいきたいです。

中塚：有村さんは陸上競技で関東大会に出場し、1 年生ながら関東 3 位なったアスリートです。
　では最後に小松さんから。

小松：今日はありがとうございました。オリパラを機会に、スポーツのさまざまなかかわり方が紹介されます。大会をささえ、試合をささえる、これも余暇の過ごし方の一部だと思います。得るものは多いです。趣味の一部として、イベントや競技が好きだから、いろいろな動機で、スポーツボランティアが広まっていくといいなと思います。

中塚：ありがとうございました。来月は 11 月 19 日（木）。「with コロナ」シリーズで、次回は部活動における大会の意義について取り上げます。嶋崎さんと、全国高体連サッカー専門部技術委員長の蔵森さん、そして中塚で進めます。12 月 13 日には公開シンポジウムがあります。皆さんの予定に書き加えておいてください。
　ではみんなで写真を撮りましょう。